

いちほまれ誕生学ぶ

鯖江・片上小 開発者招き授業

NIE(教育に新聞を) 果を踏まえ今後、授業で

実践指定校の鯖江市片上小で20日、公開授業が行われた。5年生14人が社会の授業で、福井の新ブランド米「いちほまれ」の開発経緯や魅力などを専門家から詳しく学んだ。児童は事前授業で新聞記事を使い、いちほまれの概要を学習。実際に開発した福井市の県農業試験場で取材も行った。成



公開授業で富田部長(左)の話を熱心に聞く児童＝20日、鯖江市片上小



果を踏まえ今後、授業で新聞作りに取り組むことにしており、それに向け今回は同試験場の富田桂ポストコシヒカリ開発部

長を講師に招いた。

前川史典教諭がコシヒカリといちほまれの違いなどを紹介すると、児童は「なぜ、いちほまれを作ろうと思ったのですか」と質問。富田部長は

「多くの県が米の品種改良に取り組んでおり、競争に打ち勝つことが必要だった。もっと高く売れるブランド米がほしいという農家の方々の願いに応えるため、開発に取り組んだ」と説明した。

いちほまれの魅力について富田部長は、病気に強く、草丈が短いため倒れにくいと解説。児童は熱心にメモを取りながら耳を傾けていた。数下愛侍君(10)は「コシヒカリと大きな違いがあることを学んだ。うまく新聞にまとめたい」と話していた。(前田 暉)